

## BMA library Tony McSean セミナーを開催して

茂幾 周治

### 1. はじめに

Tony McSean氏は、現在英国医師会(British Medical Association)の図書館の館長として、活躍している人で、2000年7月2-5日にLondonで開催される、第8回国際医学図書館会議(8th International Congress on Medical Librarianship)の組織委員会において、中心的な役割を果している人である。今回のセミナーの開催は、彼が来日したのを機会に、(株)ユサコのお世話により企画されたものです。

日本医学図書館協会(以下「協会」と略す)は、東京地区で6月22日に開催することになった。しかし、彼が翌日の23日も時間があいているとのことであったので、急遽(株)ユサコの増田豊氏と相談の結果、関西地区でも開催することになった。セミナーは近畿地区医学図書館協議会、近畿病院図書室協議会および(株)ユサコの三者共催で大阪歯科大学図書館のお世話で開催することになった。参加の呼びかけは、薬学図書館協議会や西日本の医学図書館関係者にも行った。急な話であったため、予算もなく通訳も増田豊氏にお願いし、大阪歯科大学図書館の榊館長および伊藤課長のご好意により何とか会費は無料で実施することができた。その結果、九州、中国地区からも参加していただき、44名の参加者があった。

### 2. セミナーの内容について

スピーチ1「BMAにおける電子ジャーナルについて」

英国医師会(BMA)の創立は1830年であり、その設立の目的及び活動の概略についての話があった。次に英国における医療制度についての話があり、その中で英国の国民医療保険制度は、100%税金でまかなわれており、初期治療から専門治療までほとんど無料で患者に対してサービスされているとの説明があった。日本の医療保険制度との違いを感じさせられた。3つ目の話は、英国と米国の医療情報提供システムの比較についてであった。米国はNLMを中心に全国医学図書館ネットワークシステムが整備されており、医師、患者、市民に対して、必要な医療情報が的確に提供されている。しかし、英国では、各医療情報提供機関がバラバラであり、それぞれの機関が独自の医療情報を提供しているとのことであり、今後それぞれの機関が協力し合っていかなければならないと強調していた。4つ目の話は、BMAの電子図書館構想についてであった。英国の医療情報提供サービスの不満を解決するための方法として、電子図書館構想が生まれたといわれている。この構想は、まだ緒についた段階でこれから具体的な活動を展開するとのことだった。

5つ目の話は、電子ジャーナルの選び方についてであった。もっとも重要な要素は、その電子ジャーナルの質であり、そのジャーナルのImpact Factorを知るのも重要である。また、重要なこととして、そのジャーナルが厳しいレビューを受け、質の高い論文がどれだけ掲載されているかをみることであると力

説した。

いずれにしても、電子ジャーナルはできたばかりのこれからの新しいメディアであり、利用者にとっても出版社にとってもまだまだ発展途上であるとの説明であった。

スピーチ2.「第8回国際医学図書館会議の意義について」

2000年7月にLondonで開催される第8回国際医学図書館会議についての、準備状況や会議内容についてスライドでの案内があった。Tony McSean氏は、同会議の開催について8年間携わってきた人で、この会議では国際的に活躍している人で、今回の会議を主催する中心人物である。その彼と今回のセミナーで知り合ったことは、大変意義深かったのではないだろうか。なお、協会として、この会議への参加のためのツアーを企画しているので、たくさんの方がLondonへ行かれることを期待します。

### 3. Journal@Ovidのプレゼンテーション

スピーチ1とスピーチ2の間のコーヒープレイクにKimberley A. Scott女史によるJournal@Ovidのプレゼンテーションがあった。米国Ovid社が提供するこの商品は、科学・技術

・医学雑誌の40以上の出版社と同社が提携し、400title以上のfull textがインターネットを経由して利用できるものである。契約料金が少し高いのではと思うが、日本におけるagentは(株)ユサコである。商品の詳細については、同社にお問い合わせ願いたい。

### 4. レセプションについて

レセプションは、Tony McSean氏が当日折り返し東京に帰る予定と聞いていたので、4:00~6:00p.m.と早い時間に設定した。しかし、彼はその日は大阪に泊まり、翌日関西空港からLondonへ帰国するというようにスケジュールを変更していた。レセプションは、附属病院のプラザ14(14F)で開催された。進行は、和歌山医科大学図書館事務長西村信和氏にお願いし、近畿病院図書室協議会事務局長の小田中徹也氏(国立京都病院図書室)、大阪歯科大学図書館館長榊徹也氏の挨拶の後、九州よりわざわざ参加していただいた、九州大学医学部分館専門員園田國昭氏の乾杯で楽しく始められた。会場からは大阪城が一望でき、MacSean氏やScott女史にも満足していただいたようである。



懇親会にて Scott女史とMcSean氏

## 5. 二次会について

Scott女史は途中で東京へ帰られたが、Mac Sean氏は、先にホテルまでお送りして二次会へ招待しました。当日は雨がパラついていたので、梅田の地下街を歩いて会場の梅田北のミューヘンへ案内した。途中このような大きなsubstreetはLondonにはないと言っていた。さて、二次会では、榊館長の前席にMacSean氏に坐っていただいた。女性も含めて10数名で、ワイワイガヤガヤと楽しい飲み会が始まった。彼は、我々関西人は、大変friendlyであると感激していた。また、大阪の料理は東京に比べて大変おいしいとも言っていた。彼のお世辞かもしれないが、二次会での印象は良かったようであり、その後7月の再会を約してお別れをした。

## 6. 三次会について

帰りに、榊館長の行き付けの梅田新地の上品なスナックに元気な者が出かけご厄介になった。久しぶりの新地の雰囲気は酔い、私がJR山崎駅に辿り着いたのは、もう日付が変わっていた。まさに午前様のお帰りである。

## 7. おわりに

二次会、三次会の支払いはすべて榊館長にお世話になった。会場の準備からすべてについて、大阪歯科大学の榊館長、伊藤課長および館員の方々にしていただいた。ここで、改めて厚く御礼申し上げます。また、増田氏始め(株)ユサコの関係者の方々には今回の関西地区開催にあたり、何かとご尽力いただき誠にありがとうございました。

2000年7月には、時間と金があればLondonへ行きたいなあと考えております。